

りんどうのリンドウホソハマキの発生時期が早い ～直ちに薬剤防除を行いましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

5月中旬の産地巡回調査（14地点）におけるリンドウホソハマキの被害茎率は0.2%（平年0.0%）で高かった。

有効積算温度計算シミュレーション（JPP-NET、気象観測地点：秋田）による越冬世代成虫の羽化始期は5月18日（平年6月1日）で早いと推定された。

5月16日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報では、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

以上のことから、リンドウホソハマキの第1世代の卵・幼虫の発生時期は平年より早いと予想されるため、以下の対策を行う。

2. 防除対策

- 1) リンドウホソハマキの発生時期は早いと推定され、既に被害茎（図-1）が確認されたため、直ちにディアナSC、フェニックス顆粒水和剤、アディオフロアブルなどの薬剤で防除する（表-1）。
- 2) 散布液量は、150～300L/10aを目安とし、下位葉の葉裏までしっかり薬剤がかかるように散布する。
- 3) 茎部に食入後の幼虫（図-2）は薬剤防除が難しいため、生長部の被害（図-3）を見つけたら折り取り、土中に埋めるなど適切に処分する。

3. 資料

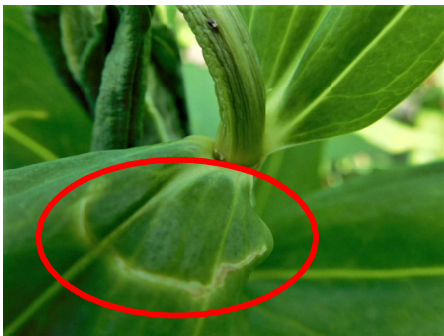


図-1 被害茎（潜葉痕）



図-2 茎部に食入後の幼虫

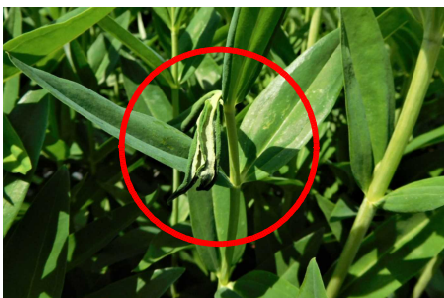


図-3 生長部の被害

表-1 りんどうのリンドウホソハマキ防除薬剤一覧

RACコード	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数
3A	アディオフロアブル	1,500倍	—	6回以内
6	アニキ乳剤	2,000倍	発生初期	6回以内
15	カスケード乳剤	4,000倍	発生初期	3回以内
30	グレーシア乳剤	2,000倍	発生初期	2回以内
5	ディアナSC	5,000倍	発生初期	2回以内
15	ノーモルト乳剤	1,000倍	発生初期	2回以内
28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	発生初期	4回以内
4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>